

こまざわ 経済 通信

発行
駒澤大学経済学部
同窓会
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢
1-23-1

経済学部長挨拶

百田 義治

経済学部は、一九四九年の新学制移行と同時に商経学部として設立され、来年、創立六〇周年を迎えます。商経学部の設立後、一九五二年には第二部経済学科（夜間部）を併設し、一九六六年には経済学科と商学科の二学科体制の経済学部へ改組されました。二〇〇〇年には第二部経済学科を経済学科フレックスBとして経済学科に統合し、さらに二〇〇七年には経済学科フレックスBを改組転換し、現代応用経済学科を新設し、経済学科、商学科、現代応用経済学科の三学科体制に移行し、現在、学生数では駒澤大学最大の学部になっています。そして、この六〇年間に経済学部を卒業された多数の方々

がそれぞれの分野で精力的な活躍をされています。この記念すべき六〇周年、人間で言えば還暦を迎え、新たな飛躍を決意していた直前に、昨年は巨額の資産運用損を発生させ、卒業生の皆様にご心配をお掛けしましたことをお詫び申し上げます。教職員一丸となつてこの難局を乗り越え、一刻も早く負の遺産を清算し、新たな発展を期さなければなりません。大学も新体制に移行し、再建の取り組みは始まったばかりですが、着実に進んで行くものと確信しています。この点でも皆様のご意見を拝聴し、ご協力を仰ぎながら、新しい駒澤大学の姿を追求することが不可欠です。新しい駒澤大学の発展にとって、その大きな

課題は現在のところ主として大学全体の活動として展開されている同窓会の活動を、学部レベル、ゼミレベルにおいてより一層活性化することでしょう。

私のゼミの卒業生も六〇〇名に迫ろうとしています。本年度のゼミ同窓会には、現役のゼミ生も含めて約一五〇名が参加します。しかし残念ながら、ゼミの枠を超えて、駒澤大学の同窓会活動に積極的に参加する者はごく僅かにとどまっています。このような卒業生を経済学部同窓会、駒澤大学同窓会に結集・組織化して行くために何か必要なのか、また経済学部として何をしなければならぬのか、創部六〇周年を迎えた今こそ皆様とともに考える絶好の機会であり、必要な時でもあると痛感しています。

経済学部では、現在、六〇周年記念事業委員会を立ち上げ、さまざまな企画を進めています。秋のホームカミングデイには同窓会とタイアップした企画も実現したいと思っています。是非とも、皆様のご意見をお聞かせいただければと存じます。また、ビジネスの世界で、あるいは社会活動において活躍されている卒業生の方々を講師として迎えて、その経験を多くの学生に語っていただく授業もさらに充実したものにすることがあります。この点でも同窓会の皆様の全面的なご支援を期待しています。

経済学部の発展が、学生、教職員の努力に加えて、教育後援会（父兄会）、そしてなによりも同窓会の皆様のご支援なしに叶わないことは明らかです。皆様のご意見をお寄せください。皆様とともに経済学部の発展、今後の飛躍を実現したいと思います。



平成21年経済学部教員 前列左から4人目百田経済学部長

(平成21年5月20日 禅文化歴史博物館前にて撮影)

名誉教授シリーズ(1)

在職時代の思い出

遠藤 孝



になった。

当時、学生数は膨張を続けていたが、教育陣容はととのわず設備も不備のまま、駒沢大学—経済学部の社会的認知度は決して高いものではなかった。

折りしも六十年安保闘争を契機に各地で学生闘争が活発化し、六十年代後半には各地の大学で学園封鎖、校舎占拠が相次ぎ、駒沢大学でも「学園民主化、マスプロ教育反対など」を旗印に学生運動が起こり、六十八年、六十九年と二度、長期にわたり校舎が占拠され授業不能となった。当時、激動の時代を体験された同窓の皆さん、六十年代後半になっていと思われ

るが、お元氣だろうか。上記、学園紛争を契機に学内に「刷新委員会」が設置され、学部自治などが確立され、今日の学園民主化の基礎が築かれたのである。

民主化後、経済学部の最初の留学生として、一九七二年にア

メリカ、カリフォルニア大学バークレー校に留学することになった。当時、最初の留学ということでも珍しかったこともあり、多くの同僚、ゼミ生など学生諸君の見送りを受け感激したものである。当時のゼミ生も、かれこれ六十歳近くになっているのではなからうか。

非常勤講師として四年、専任教員として三十九年勤務し。二〇〇一年三月末定年退職したが、この間、学部、大学院での教え子の数はどのくらいにのぼるだろうか。ゼミの卒業生だけでもほぼ八〇〇名近くになるように思われる。ゼミ、大学院ゼミの卒業生のなかには研究者になった者、公認会計士、税理士など職業会計人になった者など、多彩であり、そのかなりの方とはいまもお付き合いをいただいている。

一九七九年に経済学部長に就任し、その年が経済学部創設三〇周年であったこともあり、その「記念論文集」の刊行の辞で最後に私はつぎのように述べて

いる。「三十年経ったが、大学の生命は長く、ようやく三十年といってもよいであろう。より充実、発展した姿で、四〇周年、五〇周年を迎えられること



昭和40年代 玉電駒沢駅

をとくに祈りたい」。この時かく高まっている。これも「三〇周年記念号」に書いたことであるが、どのような卒業生を輩出しているかは、一面では、その大学の評価に連なることであり、同窓の皆さんの益々の活躍を期待したい

今日、経済学部は経済学科、商学科、応用経済学科の三学科を擁し、毎年一〇〇〇名ちかくの卒業生を輩出し、順調に発展を期待したい (駒沢大学名誉教授)

経済学部の前身である商経学部(一九四九年発足)で、はじめて非常勤講師として教壇に立ったのが一九五八年四月で、当時「簿記論」「商業実践」を担当したと記憶している。あれから五十年以上経過し、当時の受講生を二十歳前後として、それらの方々も七十歳を越えていることになる。同窓のどれだけの方が覚えていてくださるだろうか。

その後一九六二年に専任講師、六十三年に助教授となつて主として「簿記論」を担当した、高度成長時代で大学もまた

膨張期、駒沢大学商経学部も同様に、右肩上がりの量的拡大を示し、学生を迎える設備が間に合わず、急遽つくられたプレハブ校舎で汗をかきかき何百人もの学生を対象に「簿記論」を講義した。当時の受講生が私の講義歴で最も多く、あるいは覚えていてくださる同窓の方もおられるのではないだろうか。その後一九六五年に商経学部は経済学部となり、経済学科、商学科、第二経済学科を擁することとなり、そこで「財務会計論」を主口座に、「会計学総論」、それと「ゼミ」を担当すること

商学科で

『会計プロフェッショナルクラス』

を開設

平成二十年の公認会計士試験で本学関係者から十二名の合格者が出ました。学部別の内訳は、経済学部八名、経営学部二名、法学部一名、文学部一名です。経済学部関係者の躍進が目を見せますが、さらには合格者十二名のうちの二名が現役合格で、いずれも経済学部四年生でした。これはまさに快挙といえます。経済学部生が難関とされる国家試験に果敢にチャレンジし、見事に栄冠を勝ち取っていることを経済学部の教員として大変喜ばしく思っています。ちなみに、平成十九年の公認会計士試験の本学関係の合格者数は九名で、うち六名が経済学部出身者であり、経済学部関係の合格者数は増加傾向にあります。

公認会計士または税理士を目指す学生は、大学以外に専門学校に通って受験勉強をするいわゆるダブルスクールを行うことが一般的ですが、「会計プロフェッショナルクラス」の最大の特徴は、専門学校で勉強したことが経済学部を卒業するために必要な単位として認められるところにあります。具体的には、会計士コースであれば最大三十二単位、税理士コースであれば最大二十四単位が、卒業に必要な単位数一二四単位に算入されます。単位の認定にあたっては、専門学校での出席回数および定期試験の点数ならびに本学でのレポート提出などの要件はありますが、真摯に受験勉強に励む学生に対し、勉強に没頭できる環境を提供するという意味で画期的な制度です。オープンキャンパスでは高校生からの問い合わせも多く、「会計プロフェッショナルクラス」があるから商学科に入学したという学生もいます。そうした学生の声にこたえるべく、難関といわれる国家試験に立ち向かう学生がひとりでも多く合格できるようにサポート体制の充実を図っていきたいと考えています。

(経済学部教授 森田佳宏)

訃報

上坂 修 夫 名誉教授



駒澤大学名誉教授上坂修夫先生が六月十五日、逝去されました。(享年七十八)

先生は昭和四十一年、経済学部で経済地理担当の専任講師として就任され、平成十一年三月退職されるまで三十三年間にわたり研究と学生の指導に尽力されました。

その間、昭和五十六年経済学部長、六十一年教務部長、平成二年からは副学長として大学行政の中心で活躍され、平成七年には大学院経済学研究科委員長に就くなど要職を歴任され、本学の発展に多大な貢献をされました。

研究者として多数の優れた業績を残されただけでなく、温厚で誠実な教育者として学生からの信頼も厚く、また卓越した行政手腕と円満な人格によって教職員の厚い人望を集めました。

業績は『現代地理学体系 世界地誌 第四巻』(共著)古今書院、『A Simple Atlas of Japan』(共著)中教出版、『タイ・ビルマの人口と経済』(共著)アジア経済研究所など多数があります。ここに哀悼の意を表し、先生のご冥福をお祈り致します。

駒澤大学の思い出

勝山 強

経済学部
昭和四十一年三月卒業

歲月なんて、アットという間に過ぎてしまうという意味で「十年一昔」というのかと思っていた。十年経っても、あまり変わらないねえ、というときにも使っていた。

ところが、四十年も過ぎると、もう昔のことだ。

その間には、大きな変化がある、「四十年四昔」とはそういう事のである？何か理屈を並べているみたいを感じる。

私が、大学に入学したのは昭和三十七年の四月のことである、当時大学開校八〇周年の年と、東都大学野球で初の優勝し、三軒茶屋から学校迄、雨の中を、パレードに参加させて頂いた事が鮮明に覚えております。駒沢の町は、都電（俗に言うちんちん電車）が走っていた静かな街でした。校内は、古めかしい、鉄筋建てと木造校舎で、大正十四年の関東大震災後に、現在の駒沢に、移転したと

他暗い話題が新聞紙上を賑わしておりますが、時代の変化に敏感に生きて行かなければならぬといときだと思えます。

学校で学んだ、「行学一如」「信誠敬愛」の精神で、この大不況の荒海に漕ぎ進んで参りましたとおもいます。

最後に、伝統ある「駒澤大学経済学部」の大きな発展のため、微力ではありますが、全力を傾けて全うする決意でありますので、会員諸兄の一層のご指導、ご協力を切にお願いする次第であります。

駒沢の今昔

佐藤 均

(昭和四十六年卒)

「卒業してから駒沢を訪れたことがありますか？ 今ではすっかり様変わりしています」

例えば一九六七年、『玉電』に揺られ初めて駒沢の地を踏んでから数十年、その『玉電』は、田園都市線と名を変え「二四六」の地下を疾走しています。駅から学校までの距離は長くなりましたが、閑散としていた国道沿いには数多くの店舗が軒を連ね、友人との語りやサークル活動などで大いに利用した『駒沢公園』の木々も大きく成長し「森」の感を呈しています。

同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は現在、学校職員として大学に勤務しています。その関係で経済学部同窓会の幹事として微力ながらお手伝いをしながら、この「けいざい通信」の編集に携わっています。昨年、本学は資産運用において巨額な損失をだし、大学の信用を失い、同窓生の皆様には大変なご迷惑と心配をかけたことを心からお詫び申し上げます。今年度は心新たに、教職員一丸となって伝統ある駒澤ブランドの回復に向かって努力してゆくことが、同窓生に対する信頼回復になることと信じています。幸い今年の入学志願者も昨年の志願者数を大幅に下回ることも無く安堵した次第です。これからも同窓生の皆様のご支援をよろしくお願い致します。またこれは余談ですが、私の大学四年間は経済学部の学生と言うより、陸

「是非、昔の学び舎に会いに来てみませんか」

正門を入ると、大きなボーリー

♪これから♪

大澤 隆 司

(昭和四十八年卒)

上競技部で過ごした学生時代でした。

その頃の駒澤はまさに箱根駅伝の黎明の時代でした。その箱根駅伝も今年は残念な結果に終わりましたが、王者駒大を復活させるべきOBとして現役選手を盛り上げていきたいと思っております。同窓生の皆様には駒澤大学に対する苦言、励ましの言葉、駅伝等、スポーツ、サークル、ゼミなど意見、感想等返事をお待ちしています。また、この「けいざい通信」に掲載して同窓生にお知らせしてほしいことなど皆様の記事をお待ちしています。



経済学部(07~09年3月卒業)の主な就職先

【建設・住宅】

鹿島建設・熊谷組・旭化成ホームズ・住友林業・積水ハウス・大和ハウス工業・住友不動産販売。

【製造業】

富士重工業・スズキ・東芝・シャープ・三菱化学・帝人・日立製作所・旭化成・富士通・ウシオ電機・富士ゼロックス・大日本住友製薬・塩野義製薬・ツムラ・大王製紙・凸版印刷・山崎製パン・フジパン・東洋水産・日清食品・はごろもフーズ・伊藤園・ロッテ・大鵬薬品工業・ファイザー・東京ガス。

【金融・証券・保険】

三菱東京UFJ銀行・みずほ銀行・三井住友銀行・りそな銀行・三菱UFJ信託銀行・みずほ信託銀行・みちのく銀行・秋田銀行・山形銀行・北國銀行・北越銀行・十七銀行・茨城銀行・関東つくば銀行・群馬銀行・常陽銀行・東日本銀行・横浜銀行・千葉銀行・東京都民銀行・千葉興業銀行・八千代銀行・京葉銀行・静岡銀行・十六銀行・スルガ銀行・長野銀行・百五銀行・愛知銀行・大分銀行・鹿児島銀行・野村證券・大和証券・日興コーディアル証券・三菱UFJ証券・新光証券・第一生命保険・損害



▲駒澤大学第二研究館

保険ジャパン・東京海上自動車火災保険・三井住友海上火災保険・日本興亜損害保険・あいおい損害保険。

【運輸・通信】

NTT東日本・JR東日本・JR東海・小田急電鉄・東京メトロ・日本通運・遠州鉄道・東急バス。

【商社・小売】

伊勢丹・イオン・イトーヨーカ堂・セブンイレブンジャパン・西武百貨店・紀伊国屋・有隣堂・東京エレクトロン・日本IBM・良品計画・ワールド・キーコーヒー。

【旅行・サービス・その他】

JTB・近畿日本ツーリスト・HIS・JCB・ジャックス・三井住友カード・セコム・リクルート・ヤフー・ポニーキャニオン・ANAセールス・ニューオータニ・オリエンタルランド・毎日コミュニケーションズ・JR東海パッセンジャーズ。

国家公務員・地方公務員(行政・警察)・高等学校教員・中学校教員

経済学部同窓会会長賞を授与

経済学部同窓会は、平成二十一年三月二十五日に挙行された卒業式において、学業で優秀な成績を修め、人物共に優れた経済学部の学生9名に経済学部同窓会より「経済学部同窓会会長賞」が授与された。

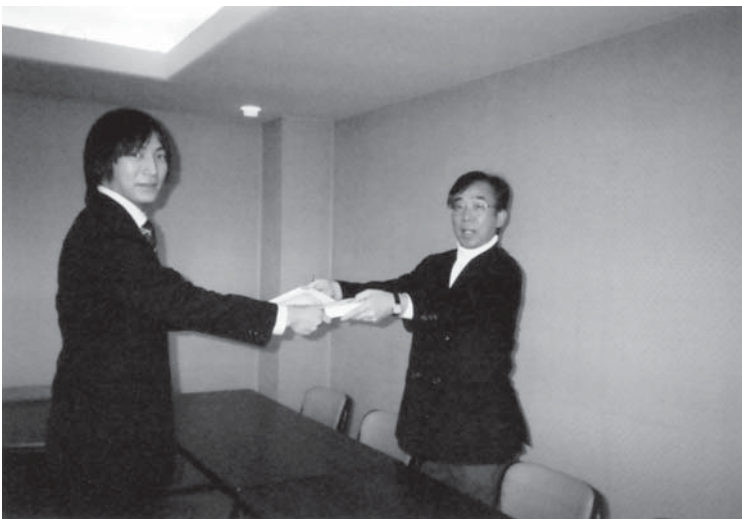
経済学科フレックスA	商 学 科	経済学科フレックスB
氏 名	氏 名	氏 名
伊 藤 秀 幸	伊 藤 愛	高 野 慎太郎
高 杰	栗 原 蒼 海	中 嶋 良 仁
清 水 祥太郎	秋 山 望	安 齋 一

表彰された九名は、教務部で選考され、経済学部教授会で審議の結果選出されたもので、表彰者は次の卒業生である。

表彰式は、卒業式の後、各学科に分かれて行われる卒業証書授与式の際に行われ、経済学部同窓会より表彰状と記念品（万年筆）がそれぞれの学生に授与された。

伊藤秀幸、伊藤愛、高野慎太郎君の3名は「経済学部同窓会会長賞」と併せて「学長賞」も授与された。

写真は「経済学部同窓会会長賞」が授与された①伊藤秀幸君、②高 杰さん、③清水祥太郎君、④栗原蒼海さん、⑤秋山望さん、⑥高野慎太郎君、⑦中嶋良仁君、⑧安齋一君。



①伊藤秀幸君



②高 杰さん



③清水祥太郎君



④栗原蒼海さん

≡≡≡ 経済学部同窓会会長賞を受賞して ≡≡≡

平成20年度卒 経済学部経済学科フレックスA 伊東 秀幸

この度は、思い掛けず経済学部同窓会会長賞を戴きまして、大変驚いております。卒業生として、これほど嬉しいことはありません。ご指導を戴きました先生方に、心より御礼申し上げます。

私は、現在、駒澤大学大学院商学研究科において、租税法を研究しております。今回の受賞は、私にとって大きな励みとなっています。税理士試験の合格に向けて、今後も学業に精進いたします。

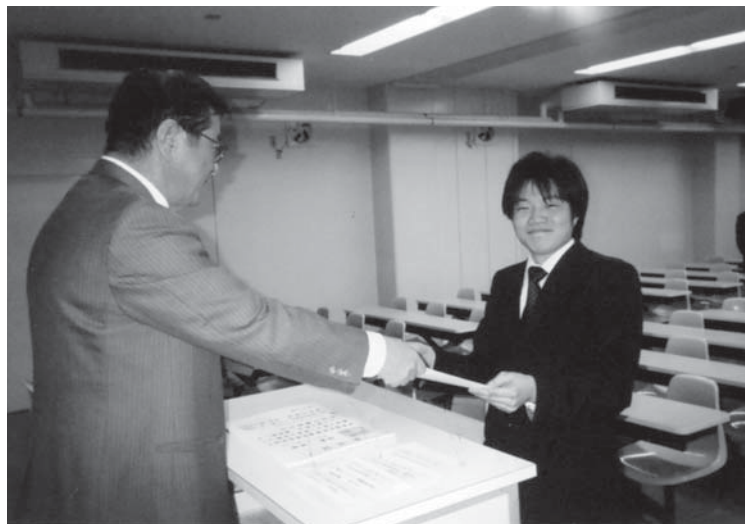
最後になりましたが、経済学部同窓会のご発展と先生方のご多幸をお祈り致します。本当に、ありがとうございました。



⑤秋山望さん



⑥高野慎太郎君



⑦中嶋良仁君



⑧安齋一君

ソフトボール大会記

北口ゼミ三年 田中聖人

第十八回経済学部ソフトボール大会が十月十五日に行われまし
た。前日からの雨の影響で中止が心配されていましたが、当日は天候に恵まれ、二十八のゼミチームと同窓会、教員チームが参加しました。この日のために日頃からソフトボールの練習をするゼミや当日の早朝に来て練習するゼミ、チームで同じTシャツやポロシャツを作っている

るゼミなどがあり、ゼミの団結力が垣間見るとともにこの日に対する熱意が伝わってきました。

朝九時からトーナメントが始まり、終了したのは夕方六時でした。一回戦で敗退しても敢闘賞杯勝ち上がり戦（Bリーグ）があり、どのチームも最低二回は試合ができるシステムで、とてもよかったです。優勝



チームは瀬戸岡ゼミで準優勝は大石ゼミ、そして三位は山縣ゼミと番場ゼミ、Bリーグの敢闘賞は谷敷ゼミでした。

どの試合も盛り上がっていました。瀬戸岡ゼミと大石ゼミの決勝戦はとても見応えのある試合でした。このようなゼミ同士の交流はなかなかないので、これからも続けていければいいと思います。当日参加したゼミ生、先生方、OBの方々そしてバックでサポートしてくださいました方々、本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございます。

経済学部教員の新著

福原 好喜著

『熱血教授 心の教育―駒大経済 銀八ゼミナール』

(日本文学館、二〇〇八年)

本学部で長年「経済学史」を講じておられる著者は、地元南房総市では「地下タビをはいた教授」として知られる農業経営者である。そのユニークな人格に裏づけられた教育理念は「若者は実は授業や説教では育たない。学問もスポーツも、また人生の生き方も、教師は唯黙ってやって見せるのみ」である。福原教授と学生の心温まる交流を記した本書は、教育の原点とはなにかについて限らない示唆を与えてくれる。その他、不況脱却の独自案、地域振興の提言など内容は多彩である。

ロバート・パクストン著 瀬戸岡 紘訳
『ファシズムの解剖学』

(桜井書店、二〇〇八年)

二〇世紀の歴史にとってファシズムのもつ意味は重い。各国ファシズムの研究を踏まえて、運動としてのファシズムがどのような段階移行を経て成長していくのか、その包括的把握を提起する壮大な試みである。こうした視点に立って、現在世界にもファシズムの兆候や危険性はあるという著者の警鐘は傾聴すべきであろう。ファシズム研究の「現時点での最高峰」を流麗な翻訳で提供された瀬戸岡教授は、本学部では「アメリカ経済論」を担当し、内外の学会やゼミ指導で精力的に活躍されている。

安元 稔著
『製鉄工業都市の誕生―ヴィクトリア朝における都市社会の勃興と地域工業化』

(名古屋大学出版会、二〇〇九年)

イギリス経済史、歴史人口学の権威である安元教授が、二度の在外研究を含むこの一〇年間の研究をまとめた力作である。一九世紀イギリスに彗星のように出現し、大英帝国の繁栄を支え、急速に没落していった製鉄工業都市ミドルズバラの興隆から衰退に至る軌跡が、その経済・社会的諸側面とあわせて、最先端の研究手法と膨大な史料やデータを駆使して克明に跡づけられた。文字どおり「研究のムシ」である安元教授によって成し遂げられた前人未到の国際的業績である。

ホームカミングデー開催のお知らせ

第6回ホームカミングデーがオータムフェスティバル（大学祭）に併せて今年も11月1日（日）に開催されます。同窓生ならどなたでも参加できます。個人やご家族で、是非母校においでください。当日は各種催し物や出店、大型スクリーンでの全日本大学駅伝の応援もできます。

経済学部創立60周年のお知らせ

「経済学部創立60周年記念事業」の1プロジェクトとして学部学生を対象に「記念奨学論文」を公募します。審査の結果、入選論文には賞状と記念品が贈呈されます。

詳細は、駒沢大学ホームページでお知らせします。